



UNEP

平成27年度
国際生物多様性の日 記念シンポジウム



九州・沖縄の生物多様性の 保全と活用

主催 国立研究開発法人森林総合研究所九州支所
後援 九州森林管理局・九州地方環境事務所・熊本県・熊本県教育委員会・熊本市・熊本市教育委員会
日本森林学会・日本生態学会・日本鳥学会・九州森林学会・熊本野生生物研究会



やんばるの森（5月，沖縄県国頭村）

講演内容と演者

九州・沖縄の生物と文化の多様性から学ぶこと

湯本貴和（京都大学霊長類研究所）

亜熱帯の島にくらす希少鳥類の保護と外来種問題

小高信彦（森林総合研究所九州支所）

綾照葉樹林における生物多様性の探求と学校教育への応用

小南陽亮（静岡大学教育学部）

生物多様性地域戦略と地域づくり

岡野隆宏（環境省自然環境局）

日時 平成27年6月14日（日）

開場 12:45 講演 13:15～16:30

会場 くまもと県民交流館パレア

10階 パレアホール

（熊本市中央区手取本町8-9）

対象 高校生以上

申込・参加費 不要

お問い合わせ：国立研究開発法人森林総合研究所九州支所連絡調整室

〒860-0862 熊本市中央区黒髪4-11-16 電話 096-343-3169（直通） FAX番号 096-344-5054 電子メール kyswebmaster@ml.affrc.go.jp

国際生物多様性の日 記念シンポジウム

九州・沖縄の生物多様性の保全と活用

国際連合は、2000年の総会において5月22日を国際生物多様性の日としました。生物多様性条約の事務局が置かれている国連環境計画（UNEP）は、毎年この日に生物多様性を取り巻く問題に関する普及啓発をはかるよう、各国に呼びかけています。

森林総合研究所においては、一般の方々に弊所における森林の生物多様性に関する研究成果や生物多様性への理解を深めていただくため、他機関の研究者を交えて「国際生物多様性の日 記念シンポジウム」を開催しています。今回は九州・沖縄地方で初めての開催です。

日時：平成27年6月14日（日） 場所：くまもと県民交流館パレア 10階パレアホール

12:45 開場

13:15 開会の辞

13:20～13:55

九州・沖縄の生物と文化の多様性から学ぶこと

湯本貴和 京都大学霊長類研究所 教授

九州から沖縄にかけては、世界自然遺産あるいはその候補地を含み、“自然の豊かな場所”として知られています。しかし、多くの自然は、人間の手が加わったものであり、それぞれの地域の歴史と文化を理解することが、今後の生物多様性の保全に欠かせません。その実例を紹介します。

13:55～14:30

亜熱帯の島にくらす希少鳥類の保護と外来種問題

小高信彦 森林総合研究所九州支所 森林動物研究グループ 主任研究員

世界自然遺産の候補地である「奄美・琉球」の島々にはノグチゲラやヤンバルクイナなどの希少な固有鳥類が生息しています。ここでは亜熱帯の森が広がる沖縄島北部やんばる地域を例に、人のくらしと固有鳥類の関わりや、保護上大きな課題となっている外来種問題について紹介します。

14:30～14:40 休憩

14:40～15:15

綾照葉樹林における生物多様性の探究と学校教育への応用

小南陽亮 静岡大学教育学部 教授

長期生態観測によって綾照葉樹林における生物多様性についてどのようなことがわかってきたのかを解説し、そのデータや知見が、将来的に学校教育において活用できる可能性を考察します。

15:15～15:50

生物多様性地域戦略と地域づくり

岡野隆宏 環境省自然環境局 生物多様性地球戦略企画室 室長補佐

生物多様性は地域のくらしを支えるものであり、保全しつつうまく活用することで地域づくりにもつながります。その考え方を地域でまとめるものが生物多様性地域戦略です。九州・沖縄における生物多様性地域戦略の取組と、生物多様性を活用した地域づくりの事例について紹介します。

15:50～16:20

総合討論 生物多様性の保全・活用と地域の活力

16:20 閉会の辞